

神出病院再生ロードマップ

令和6年5月30日

医療法人聖和錦秀会 神出病院

神出病院再生ロードマップ

1. 理念である「患者様の理解に基づいた心ある医療」の実現
2. 「利他」「振り返り」「学び」「発展」の4つの方針の実践

目標と具体的な取り組み		令和3年～令和5年度	令和6年度	令和7年度	めざす姿
目標	○理念に基づいた健全な経営の実践 ○虐待を起こさない組織づくり ○地域との共生				
	取り組み1 虐待を起こさない組織づくり	理念経営の浸透	理念の再構成と4方針の策定と周知	理念に基づき考え、行動することの実践	理念に基づき考え、行動することの継続
組織構造の確立		経営の役割分担（管理責任、執行責任、財務責任による三権分立）により相互牽制を行い、意思決定にバランスをとる組織構造の正常化	役職及び役割、責任の明確化 報連相の徹底	職員一人一人が役職役割に沿って主体的に行動できるようになり、判断及び行動できる	
各種委員会の整備		委員会の位置づけを明確にし、委員会活動が正常に機能できるようにした行動制限最小化委員会に外部弁護士招聘	委員としての自覚を持って自ら考えようとする委員会活動	専門的な知識を高め、各種委員会の質を上げ、自ら考える委員会活動の定着	
組織における問題解決能力の向上		問題解決的な仕事の取り組み方を広め、会議、カンファレンス等システムを作った	会議及びカンファレンスを有効活用し、問題を俎上に上げ、チームで考える習慣	仮説・実践・検証・改善を繰り返し、チームで能動的に問題解決に取り組んでいく	
取り組み2 精神科病院と地域の垣根をなくし、共生を目指す	地域に開いた病院づくり	公開研修及び地域交流会の実施 神出地区自治会へのご挨拶とご説明	公開研修及び地域交流会の実施 地域の防災計画	公開研修及び地域交流会の継続実施と参加層の拡大 グラウンド及び体育館の開放 防災計画の具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・病院を地域に開き、地域交流ができる場にする ・差別のない社会や医療 ・精神疾患に対する啓蒙や啓発 ・予防のための知識や院内資源を提供し、気軽に利用できる病院
	院外の人と共同した医療づくり	行政及び地域の支援者と共同して退院支援を行うことの実践	地域の支援者によるカンファレンスの参加の推進	地域の支援者の入ったカンファレンスの定着化	
	神出リカバリープログラムの立上げと神戸市モデル事業の開始 リカバリー及び地域移行支援事業、ピアサポーターの院内研修の実施	神戸市及び神戸ピアサポーターの協力を得て神出リカバリープログラムを運営 リカバリーの院内普及 地域移行支援事業の導入	ピアサポーターによる個別支援の推進 地域移行支援事業の積極的な活用		
	神出モデルの発信	虐待防止プログラム、リカバリープログラムの確立とHP等による取り組みの公表	外部団体及び病院の見学受入れ	神出病院の取り組みの整理と発表	

神出病院再生ロードマップ

1. 理念である「患者様の理解に基づいた心ある医療」の実現
2. 「利他」「振り返り」「学び」「発展」の4つの方針の実践

	目標と具体的な取り組み	令和3年～令和5年度	令和6年度	令和7年度	めざす姿	
目標	○治療的な環境づくり ○医師主導（薬物療法中心）の精神科医療からの脱却					
取り組み3	改革を促進するための環境及び設備の整備	病室の整備	病棟機能の明確化 A4病棟に2床A5病棟に3床個室増設	A4、A5病棟の個室増設 保護室エリアの計画 病棟編成の計画	保護室エリアの完成 病棟の再編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の負担軽減及び患者の安心安全のために、計画的に治療環境を整えていく ・ 健全な経営を取り戻し、利益を患者及び職員に還元する
		設備の改善	カビの除去及び防カビ対策 給湯設備の更新 院内清掃強化 他、随時設備の更新	空調設備の更新 医療ガス設備の増設 分包機の更新 など	電子カルテの計画と導入 レントゲンの更新 など	
		人的資源の確保	外部より院長、改革責任者、看護部顧問等の招聘 看護学校と交流	特定技能生の導入 看護学校との連携強化	看護学校との連携強化 看護部長の配置	
		景観及び屋外設備の整備	患者サービス向上委員会の設置 花壇の整備 敷地のアスファルト舗装の補修	中庭・正門付近の植栽や花壇の整備 兵庫県緑化事業の計画	患者や地域住民の憩いや癒しの場になるような環境づくり	
取り組み4	患者中心の心ある医療の実践	専門性を高めるための研修・教育	教育委員会の設置 院内研修（毎木曜日）の実施 積極的な外部研修への参加推進	教育委員会と各種委員会の連携により計画的な教育及び研修の実施 外部研修受講の推進	研修内容のstep up 実践の振り返りと体系化 図書室をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の立場に立った医療の実践 ・ 医師主導（薬物療法中心）の精神科医療を変革し、本物の“多職種によるチーム医療”を目指す ・ 医療の標準化を目指し、改善を図り、常に進化し続けていく ・ ACPを取り入れ、命の最後に対する話し合いを実践 ・ 精神疾患を持ちながら、身体疾患を持つ合併症患者に対して、適切な治療が提供できる
		チーム医療の実践	A4A5病棟で全体カンファレンスを開始、その後全病棟でカンファレンスの実施 内科医の増員（1名）	特に療養病棟のカンファレンスを増やす 身体合併症治療の内科医連携	疾患や障害に応じて各職種がチームリーダーに	
		医療の標準化	感染や医療安全、行動制限等マニュアルの見直しの実施 病棟間の格差を少なくし、統一化	退院支援計画に基づいた退院の推進 標準（基準の型）づくり	型を作り、メカニカルに動けるようにする	
		患者及び家族の主体的な治療への参加	疾患教育等、院内研修へ家族の参加 リハビリプログラム計画と立上げ 職員研修を行い、意識改革を行う	ACP推進。終末期医療の倫理及び判断基準の構築 リハビリアドバンスクラスの計画	リハビリプログラム・家族会の計画	
		看護部は、BSCを用いた改善計画の実行	課題の洗い出しとBSCの策定	令和6年度BSC参照	看護BSC長期計画	

神出病院再生ロードマップ

1. 理念である「患者様の理解に基づいた心ある医療」の実現
2. 「利他」「振り返り」「学び」「発展」の4つの方針の実践

目標と具体的な取り組み		令和3年～令和5年度	令和6年度	令和7年度	めざす姿	
目標	○風通しの良い風土					
	○虐待や犯罪のない社会への貢献					
取り組み5	風通しの良い、明るい職場づくり	職員の望ましい行動に光を当てる	職員への個別面接の実施 トラウマティックな共同体から回復の共同体へ	good job活動の開始 (虐待防止委員会)	病院全体及び各種委員会で取り組んでいく	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の自己肯定感を高め、明るく前向きに自信をもってプロとして職務に当たる ・一人一人の良いところが生かされるような職場づくり ・時間管理ができるようになり、無駄な時間や無駄な作業を減らしていき、効率よく仕事ができる
		叱責ではなく、失敗から学び、改善し続ける組織	トヨタのカイゼンの考え方を取り入れ、問題を洗い出し、改善し変化し続ける仕組みづくり	繰り返されるミスの要因分析を行い、減らしていく		
		相手を超える態度、言動が自然に意識せずともできる	虐待防止チェックリストを用いて、自らの言葉や態度を振り返る習慣をつくり、面談等により言動の修正を行った 治療的な言葉や態度の意味について繰り返し伝えた	▶ 接遇委員会により、患者聞き取りラウンドを実施 職員一人一人の対応が本当に理念に適ったものであるか、その声を聴く	▶ 「患者のために」ではなく、「患者の立場に立って」考えられるようにする	
		ムリ、ムダ、ムラをなくす	固定観念や当たり前の見直しを行い、業務整理を行った 書類の整理、管理方法の見直し	業務の見直しにより無駄をなくし、効率化を図る 整理整頓清潔清掃しつけの実施	業務の見直しにより無駄をなくし、効率化を図り、時間の有効活用ができるようにする 整理整頓清潔清掃しつけの定着	
取り組み6	虐待や犯罪のない社会への貢献	触法精神障がい者の治療	裁判所、弁護士、警察、行政等からの相談の受諾及び治療の実施	触法精神障がい者に対する相談及び治療の受け入れの継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、行政、司法のシームレスなネットワークを構築し、精神障がい者に関連した不幸な事件を未然に防いでいくよう社会に貢献していく 	
		触法精神障がい者の支援ネットワークづくり	公開研修、研修交流会の実施	▶ 地域支援者、弁護士等司法関係者、行政とのネットワークの構築		
		虐待事案や精神鑑定を通して、虐待及び犯罪のメカニズムの解明及び発信	警察等司法関係者からの相談や捜査への協力 刑事精神鑑定の実施 司法修習生の研修講師	警察等司法関係者からの相談や捜査への協力の継続 刑事精神鑑定の実施 虐待及び犯罪の機序を明らかにし、社会に還元していく		